

地域医療に公の使命を果たす



昨年10月、千葉県の銚子市立総合病院が経営の悪化を理由に診療を休止するなど、全国的に公立病院の経営危機が深刻になっています。このような状況の中、西城市民病院を存続させるため、経営改革プランの策定に取り組んだ庄原市。地域医療や公立病院のあり方について、滝口季彦市長と西城市民病院の郷力和明院長が思いを語りました。

公設公営として存続

市長 厚生労働省の医療行政によって、地域医療が崩壊しかけている中で、経営改革プランは市民参加による経営改革検討委員会を中心に、今できる最善の方法を検討し、地方公営企業法の全部適用で、公立病院として存続するという良い方向が示されたと思います。

院長 ささまざまな議論の結果、公立で存続させるべきだという方針は、職員としてありがたいと感じています。また、このことは民間ではできない公立病院としての使命を果たしなさいということだと思います。これまでやってきた地域包括ケアという医療、保健、福祉、介護が一体となったサービスを柱に、不採算部門も抱えながら、市民の皆さんが望む医療

を提供しなければいけないと思います。

市民の命と健康を守る

市長 全国各地で公立病院の閉鎖や休診が相次いでいますが、私は行政責任者として西城市民病院を絶対に守らなければいけないと思っています。公の使命を放棄してはいけません。公設民営という提案もありましたが、市民の命と健康を守る医療を採算性のみで存廃を決めるという考えは持っていません。市民の皆さんの健康を守り、安心して医療が受けられる環境づくりが自治体に課せられた使命です。これは、市が支援をしている庄原赤十字病院や各へき地診療所においても同じで、経営という視点での見直しや意識改革は必要ですが、財政状況が多少厳しくなっても、

行政として財政出動し、守っていくべきだと思います。

院長 広大な面積を有する庄原市で、一般の病気で入院できる設備があるのは、西城市民病院と庄原赤十字病院、東城・こぶしの里病院などわずかです。また、医療密度が低い中で、医療



機関が一つなくなっても、市民の皆さんはお困りになります。医療機関同士がお互いに連携しながら、市民の皆さんの健康を守っていく必要があります。

医師を迎える風土づくり

市長 全国的に医師・看護師不足が深刻で、一自治体でできる

ことも限られています。昨年度行った医師住宅の環境改善のように、市として待遇面をしっかりと整備していきます。一方で、

最近では患者の医療に対する過剰なクレーム行動が問題となるなど、おかしな世の中になってきました。医療は経済行為ではありません。医師と患者が「お互いさま」と言えるような関係を大切にし、一生懸命努力している医師が報われるような患者の意識づくりが必要だと思います。

院長 中山間地域では、昔から医療従事者の確保に苦労していますが、近年ますます厳しくなっています。そこで、魅力ある職場づくりはもちろん、医師や看護師が「庄原市で働いてみたい」と思うような地域づくりが大切だと思います。そこで、自然の豊かさや人情の豊かさのある庄原市の皆さんと一緒に医師を迎える風土をつくっていききたいと思っています。また、地域住民の顔が見える医療、老年医療を学ぶことができるなど、大都会ではできないことも発信したいと思っています。

庄原市長
滝口季彦
たきぐち・すえひこ

西城市民病院院長
郷力和明
こうりき・かずあき



情報公開で住民参加

市長 今後、地域医療を守り、市民の健康を守るため、全職員が心を一つにしてこの難局を乗り越らなければいけません。職員には、病院経営を人任せにせず、自分も経営者の一人だという意識を持つて仕事に取り組んでもらいたいと思います。

また、地域医療を守るためには、常に情報公開を行い、市民の皆さんが医療について理解を深め、自分たちの病院として支えてくださることが重要です。市民の皆さんに愛される病院経営を期待しています。

院長 病院では、今何が行われているか、もともと情報公開しなければいけない。広報紙の発行をはじめ、「出前トーク」のように地域に向いて、直接市民の皆さんと意見交換したいと考えています。そのことが、市民と病院の良好な関係を築き、市民の視点に立った病院経営につながると思います。高齢化の進行やメタボリックシンドロームが話題となる中、在宅医療や

健診体制の充実を図り、市民の皆さんに必要とされるサービスを提供していきたいと思っています。

経営改革プランの内容については、4ページからの特集「西城市民病院」に掲載しています。

